

平成30年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日時及び場所

平成30年12月17日（月）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅関係では、平成30年10月の新設着工戸数は前月の減少から再び増加した。利用関係別では、貸家が減少したものの、持家と分譲住宅が増加した。また、木造は平成28年11月以来、約2年振りに5万戸を超えた。

合板関係では、三重県の合板工場が広範囲から原木を調達している影響により、合板向けの原木価格は上昇傾向にある。

原木関係では、7月の西日本豪雨や8～9月の台風の影響で、近畿地方において出材量が大幅に減少していたが、10～11月にかけて、林道等の復旧も進んだことから、出材量は回復してきており、増加傾向にある。

以上、現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見等について〉

○国産材の需給動向

- ・和歌山県の原木市場では、7月の西日本豪雨や8～9月の台風の影響により、9月の出材量はかなり落ちたが、10～11月の出材量は回復してきている。
- ・奈良県の原木市場では、西日本豪雨や台風の影響により、7～10月の出材量は大幅に減少したが、林道等の復旧が進んだことで、11月の出材量は増加傾向にある。スギ・ヒノキの並材価格の上昇傾向は天災等による出材量が例年に比べ極端に減少したことが影響しており、特に4m材については三重県の合板工場の広範囲からの原木調達がラミナ製材と競合したことが影響している。
- ・広島県の原木市場では、ヒノキの出材量は増加した一方で、スギの出材量が減少したことから、価格はスギが堅調、ヒノキが弱含みで推移している。
- ・京都府の合板工場では、全般的にスギの集荷量が不足傾向にある。
- ・西日本豪雨や台風の影響により、林道等への被害が多数発生した地域において、今年の伐採箇所を振り替えて対応したことで、出材量は回復傾向にあるが、今後の復旧作業の具合によって、来年の出材量に影響してくる可能性がある。